

平成 22 年 6 月 8 日

各 位

会 社 名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント  
 代表者名 代表執行役社長 徳田 一  
 ( J A S D A Q ・ コード 6425 )  
 問合せ先 総合内部統制室 IR・広報グループ  
 部長 工藤 正尚  
 電話 03-5530-3055 (代表)

平成 22 年 3 月期通期業績予想と実績値の差異、  
 営業外損失と特別損失の計上及び配当予想の修正に関するお知らせ

平成22年4月19日に公表いたしました平成22年3月期通期（平成21年4月1日～平成22年3月31日）業績予想と本日発表の平成22年3月期実績との間の差異、営業外損失と特別損失の計上及び配当予想の修正に関しまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成22年3月期 通期業績予想数値と実績の差異（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

[連結]

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1株当たり当期純利益
業績予想 (A)	百万円 39,000	百万円 2,800	百万円 △100	百万円 22,600	円 銭 282.95
実績 (B)	39,526	5,343	1,151	18,626	233.22
増減額 (B-A)	526	2,543	1,251	△3,974	
増 減 率	1.3%	90.8%	-	△17.6%	
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	19,993	△11,605	△13,224	△14,808	△185.26

[個別]

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1株当たり当期純利益
業績予想 (A)	百万円 32,400	百万円 2,100	百万円 2,400	百万円 △2,100	円 銭 △26.29
実績 (B)	32,354	3,905	3,466	△5,763	△72.16
増減額 (B-A)	△46	1,805	1,066	△3,663	
増 減 率	△0.1%	86.0%	44.4%	-	
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	9,904	△7,406	△6,168	△10,098	△126.33

### 【個別業績予想との差異の理由】

以下「2. 営業外損失及び特別損失の計上とその内容(2)」に記載の事項に関し、当初は約17億円を営業費用に計上することを想定しておりましたが、特別損失に計上することとなったこと等により、営業利益は予想額より約18億円上振れしております。

経常利益につきましては、上記の約18億円の上振れ要因と、以下「2. 営業外損失及び特別損失の計上とその内容(1)」に記載のとおり、平成21年3月期に実行した借入金について、当社担当者の錯誤により契約条件と異なる処理をしていたものを遡及して訂正し、当期に計上した為替差益約7億円について計上を取消したこと等により、予想額より約10億円上振れしております。

当期純損失につきましては、上記の上振れ要因と、上記借入に関する過年度（平成20年4月から平成21年3月まで）に計上した為替差益を取消し、特別損失として過年度損益修正約8億円を計上いたしました。また、繰延税金資産の取り崩しを行ったことにより税金費用が約17億円増加し、また「2. 営業外損失及び特別損失の計上とその内容(2)」に記載のとおり特別損失約23億円を計上したことなどから、予想額より約36億円下振れております。

### 【連結業績予想との差異の理由】

【個別業績予想との差異の理由】に記載の項目に加え、当社グループ会社の営業費用について、一部見積り額との差額が発生し、約7億円減少したため、連結営業利益は予想額より約25億円上振れしております。また、当社グループの持分法適用関連会社であるウィン・リゾーツ社が、同社の子会社「ウィン・マカオ社」の香港証券取引所への上場・公募増資を行った際に、税金の引当を行ったため、当社は持分に応じて、営業外費用として、持分法投資損失約10億円を計上いたしました。以上の結果、【個別業績予想との差異の理由】に記載の項目とあわせ、これらを主要因として、連結経常利益は予想額より約13億円上振れしております。当期純利益については、子会社の税相当額の増加等により単体予想における差異よりも差異額が大きく、業績予想より約39億円下振れとなっております。

## 2. 営業外損失及び特別損失の計上とその内容

(1)平成21年3月期に実行した借入金について、当社の担当者の錯誤によって、契約上は本来為替差損益の負担が借主である当社側にあつたにもかかわらず、これと異なる処理をしていたものを遡及して修正いたします。具体的には、当期計上した為替差益761百万円について計上を取消し、また過年度（平成20年4月から平成21年3月まで）に計上した為替差益の計上を取消するため、特別損失として832百万円の過年度損益修正を計上いたしました。なお、この一連の見直しは、当社の監査委員会において妥当であるとの見解を受けております。

(2)当社は平成21年3月期において、Aruze Gaming America, Inc.（以下「AGA」という）の株式を譲渡し、当社の連結グループから切り離しました。譲渡価格については、AGAの決算（平成20年12月末日）を譲渡基準日として、簿価をベースとした第三者評価機関の算定に基づき約23億円といたしました。しかしながら実態として、帳簿上に計上されている資産が実体の価値を持たないことが判明、このため継承出来る資産がほとんど無いことが判明しました。ついては、基本合意書における「平成20年8月19日付けで実施された約15億円の増資を前段階として6ヶ月間のクロージング期間を設ける」という合意に基づき、当社が改めて譲渡対象の資産・負債の精査・整理を行いました。この資産・負債の整理により、譲渡する資産はほとんどないことから、約2,321百万円を株式譲渡価値見直し損として計上いたしました。なお、この一連の見直しは、当社の監査委員会において妥当であるとの見解を受けております。

### 3. 配当予想の修正

当社は、株主に対する利益還元を最重要経営課題の一つとして取り組んでおります。その実現のため、高収益な企業体質の構築と継続的な株主資本利益率の向上に努めるとともに、業績に応じた安定的な配当の維持を基本方針としております。

また、内部留保金につきましては、健全な財務体質を確保し経営基盤を強化するとともに、有望な事業案件に対しては必要な資金を機動的に投資するために、適正な水準を維持することを基本方針としております。

当期におきましては、業績が当初計画に対して大幅に未達となった事に加えて、フィリピンにおいて計画中的カジノ・ホテル・リゾート・プロジェクトの本格始動にあたっての資金需要を考慮し、現時点では内部留保を充実させることを優先させるべきであると判断したため、平成22年3月期の期末配当につきましては無配とさせていただきます。業績・資金需要動向等を見極める為、遺憾ながら決定が遅れることとなりました。

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	合 計
前回予想 (平成21年6月2日発表)	円 銭 -	円 銭 0.00	円 銭 -	円 銭 20.00	円 銭 20.00
今回修正予想	-	0.00	-	0.00	0.00
当期実績	-	0.00	-		
前期(平成21年3月期)実績	-	0.00	-	0.00	0.00

以 上